

小沼周辺を散策しながら、トンボやチョウ・甲虫などの昆虫や、花や樹木などの観察をする。



【講話】植物の名前の由来、植物の特性、植物の見分け方、植物を取り入れた生活(昔の人の知恵)植物の効用など。

(ねらい)

動植物の観察から、体のつくりを知り、環境との関わり合いについて考えることができるようになる。

【観察できる植物】

ノアザミ、ヨモギ、ツリガネニンジン、ススキ、シラカンバ、リョウブ、ワレモコウ、マツムシソウ、ハンノキ、ムシカリ、ウツボカズラ、ゴマナ、ウリハダカエデ、オオイタヤメイゲツ、ミヤコザサなど。

指導体制: 指導者1名(学年グループへの指示、指導、時間の計時) 指導助手2～3名(児童の安全確保、児童の質問に対応、指導者の補助) に対し **対象人数**: 15～18名

準備: 捕虫網、筆記用具、メモ

留意点: 五感を活用した活動になるように配慮する。

プログラムの関連性:

小学校学習指導要領

理科、内容B 生命・地球

5年(1) 植物の発芽、成長、結実

植物を育て、植物の発芽、成長及び結実の様子を調べ、植物の発芽、成長及び結実とその条件についての考えをもつことができるようにする。

ア 植物は、種子の中の養分を基にして発芽すること。

イ 植物の発芽には、水、空気及び温度が関係していること。

ウ 植物の成長には、日光や肥料などが関係していること。

エ 花にはおしべやめしべなどがあり、花粉がめしべの先に付くとめしべのもとが実になり、実の中に種子ができること。

6年(3) 生物と環境

動物や植物の生活を観察したり、資料を活用したりして調べ、生物と環境とのかかわりについての考えをもつことができるようにする。

ア 生物は、水及び空気を通して周囲の環境とかかわって生きていること。

イ 生物の間には、食う食われるという関係があること。